

編集後記

海外では寿司ブームが続いている。今では日本人寿司職人のいない寿司レストランも多いのだが味は保証の限りではない。でも繁盛しているらしい。私の場合、疲れた時などにまず食べたいものは江戸前寿司である。江戸前寿司は芸術であると感じる。芸術を口で味わえるのはかなりの幸せである。

寿司はおいしい米と豊かな魚介類がなければ成り立たない。今、世界中の人たちが寿司の素晴らしさに気がつき始めている。私は地球の人口は寿司を食べたい人たちの希望がある程度叶えられる規模に抑えるべきであると思う。寿司を食べたい人には毎回トロでなくていいからせめて蛸は味わえる世界であってほしいといたい。今では、アボガドなどを巻いたカルフォルニアロールが日本に逆輸入されている。寿司ブームは本物である。本物であれば多少の地域性を克服して通用するのだ。

いつの時代でも同じかもしれないが、今、年金、偽装など信頼を裏切る事件が途切れることなく続いている。そしてどの事件も最後にはどんなに悪あがきをしても歴史による審判を受けることになり、本物しか生き残ることはできない

ようである。おそらくプラズマ・核融合学会誌編集委員会に対して、会誌作成の際の本物を見分ける力や構想力が歴史に耐えられるかどうか問われているのだと思う。

プラズマに接して恥ずかしながら40年になる。今までの不義理を取り繕うために編集委員を引き受けた。編集委員長を中心とした委員の皆様の真摯に取り組む姿勢は素晴らしく感激している。私自身がもっと若くして編集委員を引き受けていれば、種々の企画の立案に係わることにより、研究の真贋を見分ける力を養えたかもしれない。自分の研究にも生かされたかも知れない。自戒も込めて、春秋に富む若いプラズマ・核融合の研究者の皆様が進んで編集委員になられ、会誌作成作業を経験することにより、より広い観点から本物を見分ける力を養われることを期待したい。

寿司ブームに触れたのは、本物は世界に通用すると言いたかったためであり、もっといえば編集後記を書くのが義務だったからである。義務からは出来るだけ逃げおせたいが浮世はそれでは通用しない。美味しい寿司をいただくのは義務ではないので多少の努力も厭わない。この差はあまりにも大きい。(佐伯紘一)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	松田慎三郎	副 会 長	佐藤浩之助	三 間 園 興	常務理事	中村 幸 男 (総務委員長)
理 事	秋山 秀 典 (企画委員長)		板垣 正 文		今井 剛 (広告委員長)	
	奥野 健 二 (プログラム委員長)		尾崎 章		加藤 敬 (財務委員長)	
	佐野 史 道		田中 和 夫 (編集委員長)		寺井 隆 幸	
	島山 力 三		畑山 明 聖		浜口 智 志 (出版委員長)	
監 事	本島 修		森 雅 博 (広報委員長)			
	藤山 寛		松尾 慶 一			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 田中和夫 (阪大)

エディター 関子秀樹 (九大), 田中雅慶 (九大), 福山 淳 (京大), 村上匡且 (阪大), 室賀健夫 (核融合研), 行村 建 (同志社大)

編集委員 石黒静児 (核融合研), 大矢恭久 (静大理), 越智義浩 (原子力機構), 加藤太治 (核融合研), 北島純男 (東北大院工), 北野勝久 (阪大院工), 小口治久 (産総研), 後藤基志 (核融合研), 佐伯紘一 (静大理), 酒井 道 (京大院工), 榎原 悟 (核融合研), 佐藤紘一 (京大原子炉研), 佐藤 聡 (原子力機構), 佐藤杉弥 (日本工業大工), 高山有道 (核融合研), 田中照也 (核融合研), 谷口和成 (京都教育大教育), 長崎百伸 (京大エネ研), 長友英夫 (阪大レーザー研), 浪平隆男 (熊大院自然), 野崎智洋 (東工大院理工), 島山賢彦 (東北大金研), 花田和明 (九大応力研), 林 伸 彦 (原子力機構), 平田孝道 (武蔵工大工), 平松美根男 (名城大理工), 吉川正志 (筑波大院数理), 吉田弘樹 (岐阜大工)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第84巻第1号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jpsf.or.jp URL: <http://www.jpsf.or.jp/> 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2008年(平成20年)1月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。